

JICA ボランティア 千葉

SV ニュース
第 12 号

平成二十一年度 講演会・第七回定例会開催

平成二十一年度講演会・第七回定例会が十二月五日（土）午後一時三十分より四時まで、J R 千葉線新浦安駅前前の浦安市国際センター研修室にて開催されました。



品川会長挨拶

アドバイザー 杉原敏雄氏、JICA千葉デスク 国際協力推進員 木野本まゆみ氏、千葉県総合企画部国際室国際交流協力グループ長 宇井隆浩氏が出席されました。冒頭の品川会長挨拶に引き続き、JICA杉原敏雄氏より「市民参加協力事業の概要と評価」、千葉県国際室宇井グループ長からは「千葉県にお

る国際協力事業の取組み」と題する講演を戴きました。要旨を第二頁に掲載しております。



講師との意見交換

次いで「意見交換」の場として黒田副会長の司会で両講師との意見交換が行われました。両氏は最近の財政事情を反映して、国際交流・協力事業の見直しが求められていることを強調されました。

引き続き定例会に入り、品川会長の挨拶のあと、「平成二十一年度通常総会以降の活動概要」が津田事務局長、「国際理解（開発）教育」について増田幹事、「広報およびホームページ」について山本副会長から、それぞれ報告がありました。最後に及川幹事から最近帰国された方々の紹介が行われました。

平成二十一年度通常総会日程

日時 五月二十二日（土）
十三時～十六時
引き続き懇親会を予定
会場 千葉市国際交流プラザ

○新帰国者

反畑幸治氏（タイ・映像）
品川雅子氏（スリランカ・日本語教師・短期派遣）
樋口徹生氏（ブラジル・日本語教師・日系社会）
武松敏氏（アルゼンチン・代替エネルギー）
品川氏、樋口氏から自己紹介がありました。



新帰国者紹介
（品川雅子会員・及川幹事）

開会宣言と進行司会は黒田副会長、閉会宣言は山本副会長でした。閉会宣言後、黒田副会長から三月開催予定の第十八回帰国報告会（柏市）の案内とSVニュース十二号への寄稿要請などが行われました。終了後、会場近くの日本料理店にて懇親会を行い二十数名が参加され盛会でした。



二〇〇九年十月十五日付でJICA地球ひろばに所長として着任致しました。これまで、

SVニュース第12号に寄せて

JICA 地球ひろば
所長 貝原孝雄

推進といったJICAボランティア経験の日本社会への還元を非常に精力的に推進されたい。その効果は計り知れないほど大きなものであると思います。また、JICAボランティア募集説明会など、弊機構の事業にも平素よりご協力頂いております。この場をお借りしまして、関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。御自身、海外のJICA事務所に滞在し、多くのシニアボランティアの方々に接する機会がありましたが、皆さん、とても熱心に国際協力業務に取り組み、残っていたことが印象に残っています。又、パキスタンにおいては、青年海外協力隊員も数多く活動しており、また、シニアボランティアの方々は、自分たちの子供のように隊員に対して接して頂き、色々な悩みや相談事を解決して頂き、本当に人生の先輩として頼りになる存在であつたと思います。JICA地球ひろばは、国際協力のための市民参加事業の拠点として位置付けられております。その中でもボランティア事業は、重要な事業です。貴会のように、シニアボランティアとして海外へ派遣された後に日本で任期中のご経験を一般市民の方々に色々な形で発信して頂いていることは、非常に有りがたいことです。貴会の益々のご発展とご活躍を祈念致します。

定例会来賓講演要旨

JICA広尾センター
シニア・アドバイザー

杉原 敏雄 氏

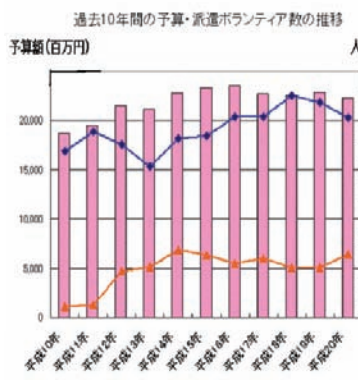


地球ひろばへ就任してから一年が経過しました。今回は地球ひろばの市民参加協力事業についてお話しします。

日本の国際援助活動予算は年々減少し、現在は九〇年代の世界一位から五位になっております。対策として、よりよい途上国支援を目指し、市民参加の強化による国際協力への支持の拡大と開発への貢献活性化を進めております。実施には国内事業部の全体調整の下に地球ひろばを拠点とし、全国十七箇所の国内機関が連携する体制です。

市民参加事業の具体的活動内容は、国際協力出前講座や地球ひろば訪問による世界の国々の理解の推進、エッセイコンテストと教師海外研修を通じて若い世代の啓蒙、イベント、セミナーの主催・共催、NGO人材育成、教材作成などで、国際協力への市民の支持の拡大を図ります。市民参加事業の開発への貢

献はJICAボランティアとして個々の知識や経験を海外で活かすこと、草の根技術協力事業（NGO等の活動支援）展開があります。二〇〇八年の実績はボランティアの新規派遣人数は千八百五十四人、新規の草の根技術協力案件は百七十件でした。次にこれまでの市民参加事業のレビュー結果をご紹介します。次回は過去十年間の青年海外協力隊とシニア海外ボランティアの新規派遣人数です。



開発途上国・地域の経済および社会の発展又は復興への寄与では、受入機関の七十六割が活動目標の八十割以上を達成したと回答しており、相手国側の評価は総じて高くなっております。

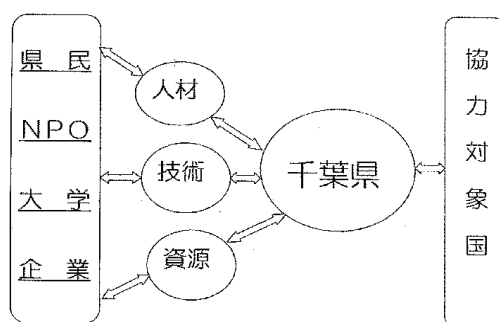
相手国側の日本に関する理解の促進度合いはボランティア派遣前後で五・五倍と飛躍的に高まっております。また、日本側ボランティアの九十六割が相手国に関する理解を深めたと回答しております。赴任経験の社会還元を考えているボランティアは全体の九十割を超え、実際に地域団体などの活動に参加した方は六割強でした。日本は景気の低迷で展望の見えない状況にあり、市民参加協力事業も再構築が必要になると思われます。シニアボランティアの皆様の一層のご協力をお願いする次第です。

千葉県国際交流協力グループ
グループ長 宇井 隆浩 氏

千葉県では「千葉の国際協力」の旗印で国際貢献、国際感覚豊かな人材の育成、地域の活性化、などを目的として国際協力事業を進めております。

「千葉の国際協力」を推進するために、国（JICA、JBOIC）、NPO、大学、企業などと連携して、千葉県が所有する人材、技術、資源を活用した事業展開を図ってきました。

平成十七・十九年に「千葉の国際協力」に係る懇話会の設置・開催を行い、専門家の意見を聴取しております。



地方自治体の国際協力は一九八八年にスタートしました。「千葉の国際協力」の具体例では平成十六年度にベトナムを対象とした協力事業を立ち上げました。

- ・千葉大学教育学部との連携の下で特別支援教育分野での人材育成推進
- ・千葉工業高校における障害児向け教材作成の取組み
- ・千葉県教育庁によるベトナムとの相互交流のあり方に關する現地調査
- ・千葉工業高校、千葉工業高校の生徒、教員をハノイへ派遣、技術交流を実施
- ・JICA草の根技術協力事

- 業として工業教育における高校生徒、教員の相互交流事業を実施中。ハノイ工科大学の技術指導と同校教員の県内工業での受入れ
- ・環境ワークショップをホーチミン市で千葉県、JBIC、NGOの共催で開催
- ・下水道および環境教育分野における人材育成をJBIC提案型事業として展開
- ・JICA草の根技術協力事業での下水道および環境教育分野における人材育成
- ・千葉県内NPOによる上総掘り、植物利用の水質浄化、「道の駅」ノウハウなどの各技術移転

ベトナムプロジェクト以外では千葉県、日本ヨード工業会、ユニセフの三者連携により、ヨード欠乏症の問題を抱えるカンボジアへのヨード支援を行いました。

「千葉の国際協力」広報活動では、JICA、ユニセフ、ちば国際コンベンションビューロー共催による「グローバルフェスタ Chiba」を毎年開催しております。

千葉県および千葉県内市町村の世界との姉妹都市提携は活発で、千葉県の二自治体を始めとして、県内二十三市二町が十五カ国、四十七都市と姉妹または友好都市として交流を行っております。

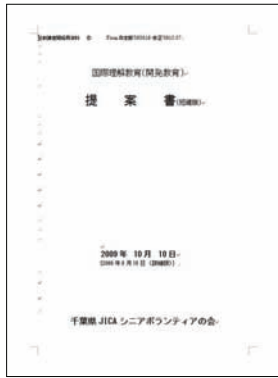
国際理解(開発)教育 推進活動

国際理解(開発)教育の新提案 書及び出前講座開拓用チラシ の作成

国際理解(開発)教育推進プロジェクト発足後、約三年を経過、講師登録会員の数も増加し、出前講座の開拓先も多彩になってきましたので、平成二十一年十月に提案書を改定し、社会人・公民館用と小学・中学校用のチラシを更新しました。

新提案書(出前講座プロポーザル)

新提案書の内容は当会としての国際理解活動の趣旨、出前講座実施に際しての事前準備の構想、出前講座の業務範囲、講師陣の派遣国名と業務内容の概略、出前講座の実績など、出前講座を要請する側から見て判りやすい内容に変更しました。



講座開拓用チラシ

社会人・公民館向けの表題を「六十才からのシニア海外

ボランティア」とし、体験講話と派遣先現地生活の楽しさを予想させる内容とし、シニアボランティア応募の動機付けを含めた内容としました。

一方小学・中学校用のチラシでは表題を「国際理解ってなに！」とし、生徒達に関心を持つような疑問事項を掲載すると共に、小・中学校での出前講座実施中の写真を掲載し、先生方にも興味を持って戴ける雰囲気のあるチラシにしました。

推進プロジェクトチームで新提案書、講座開拓用資料をそれぞれ三百部用意しました。会員各位がお近くの各種機関に出向かれる折にこれらの資料をご持参戴き、企画、教育、国際協力などの担当者

に当会の国際理解(開発)教育活動の説明、出前講座の紹介をして講座開催を要請して下さいようお願いいたします。

国際理解教育の出前講座実績

当会より講師を派遣した出前講座の実績は次の通りで、徐々に普及拡大しております。

平成十八年度 五件
七講話

千葉県JICAシニアボランティアの会・国際理解教育活動

国際理解ってなに

小学・中学校、
国際理解 出前授業

- ・日本は地球上のどこ？
- ・私達の足の下はどの国？
- ・遠い国も、小さい国もある！
- ・でも、小学校もあるよ！
- ・でも、中学校もあるよ！
- ・どんな遊びをしているの？
- ・受験勉強ってあるの？
- ・開発途上国ってなに？
- ・着る物はどんなもの？
- ・食べ物は何ですか？
- ・かき、りんご、なしなどの果物はありますか？



四街道市立旭小学校



千葉市立磯辺第2中学校

主催：千葉県JICAシニアボランティアの会
後援：JICA地球ひろば(東京・渋谷区広尾)

申込み先：千葉県JICAシニアボランティアの会 (出前資料③)
横田 Tel & Fax 043-294-6216, e-mail: zae69093@sk-2.so-net.ne.jp
増田 Tel & Fax 043-247-2980, e-mail: s-masuda@s9.dion.ne.jp

シニアボランティア・国際理解教育出前講座(体験談)

60才からの生きがい

チャレンジ！ JICA シニア海外ボランティア

現役時代の経験を生かす私の得意技、自慢の趣味異文化理解、国際交流生活習慣、食文化を知る海外から日本を見る夫婦2人で海外ボランティアボランティアの合間に秘境見学



四街道市文化センター
マイクロネシアの話



千葉市稲毛区轟公民館
ネパールの国と人々の暮らし

主催：千葉県JICAシニアボランティアの会
後援：JICA地球ひろば(東京・渋谷区広尾)

申込み先：千葉県JICAシニアボランティアの会 (出前資料②)
横田 Tel & Fax 043-294-6216, e-mail: zae69093@sk-2.so-net.ne.jp
増田 Tel & Fax 043-247-2980, e-mail: s-masuda@s9.dion.ne.jp

シニア向け出前講座PRチラシ

学教育学部での国際協力ボランティア活動を通じた海外事情と生活体験、その他ロータリークラブ、信州大学、千葉県雇用開発協会、社会福祉法人学園、教員研修会などで、それぞれシニアボランティアの経験と各国の文化生活環境などに付き講話・講演を実施しました。

小・中学校向け出前講座PRチラシ

千葉大学教育学部連携授業

当会では国際理解(開発)教育推進活動の一環として、昨年度、本年度と千葉大学教育学部吉田教室に年間数日の講師派遣を行い連携授業を行って来ましたが、引き続き平成二十二年度も継続実施することになりました。

これまで試行として主に役員が講師を務めてきましたが、今後は連携授業の定常化に備え派遣講師登録者に参画をお願いすることになりました。講義に直近の現地情報の提供が必要と判断し、ご帰国後五年以内の登録者に呼びかけております。

千葉大学教育学部における平成二十二年度の連携授業のテーマは「国際理解の実践」。「世界に貢献する日本人、シニアボランティアの海外経験より」です。吉田教授は多くの学生が受講できるよう授業を前期から後期に移し、各講師が十分な時間が取れるよう四講師に絞った「事例発表」と、一講師による「指標の読み取り」とラウンドテーブル形式の「意見交換」とすることと準備をしております。

当会では、国際理解教育の出前講座に講師を派遣しております。今後、一般市民向けに加え、小、中、高校、大学生を対象とした国際理解の啓蒙にも注力して参ります。

出前講座・自主講演

社会福祉施設で講演

日時 九月十七日（木）
対象 介護従事者
講師 羽田 亨 会員
演題 シニア海外ボランティア活動について



講演会場全景
講師は羽田 亨 会員

社会福祉法人桐友学園（柏市大津ヶ丘、渡辺直幹理事長）主催の桐友セミナーにて、関係職員約六十人の方々にJICAの海外ボランティア制度、シニア海外ボランティア応募の動機、任国の状況、生活・文化について講演されました。聴衆は介護にあたる二十代、三十代の若い人が多く、メモをとりながら熱心に聞いていました。黒田副会長が立会い当会の設立趣旨と活動について紹介しました。

千葉市立新宿小学校で講話しました

日時 九月十八日（金）

対象 六年生百十名 教員五名
講師 増田 定雄 幹事
演題 国際理解ってなーに！

国際理解の関連付けでコストリカの生活を「食物」「住居」「服装」「その他風景」に分けて説明、海に囲まれた国、国の形状、火山国、地震、夏の暑さなど日本との違いと類似点を軸に話題を対話形式で展開しました。全員興味を持って聞き、国際理解の必要性を理解したと思われます。

品川会長が浅草中央ロータリークラブで講演しました

日時 九月三十日（水）
対象 東京浅草中央ロータリークラブ第一一四七回例会
演題 南米パラグアイでのシニアボランティア経験



日本の国際協力の中でのODAの仕組みと、それに関するJICAの活動の説明があり、JICAの活動の中でボランティア活動について述べられました。また、自身のシニア海外ボランティアへの参加の動機、赴任国パラグアイにおける活動内容および各種統計資料、政治体制、日本との関係、国民の生活と環境などについて資料と映像に基づく情報提供がなされました。

ニューファミリー新聞社主催「シニアフェスティバル」でミニ講演をしました

日時 十月二十二日（木）
会場 市川市文化会館
対象 約二十名
講師 吉原 久雄 会員
演題 トルコの大地と人々



任国トルコの国土、地理、気候、生活、宗教とJICAシニアボランティアについてスライドを用いて説明し、好評を博しました。品川会長、及川幹事が立会いしました。

千葉県雇用開発協会 千葉高齢期雇用就業支援コーナー室主催の講演会に出演しました

日時 一二月二日（水）
対象 約十五名
講師 羽田 総一郎 会員
演題 シニア海外ボランティア活動



羽田講師は二年間に亘りチュニジア産業振興庁で企業家育成に携わった経験を説明され、参加者の熱心な聴講を受けました。増田幹事が立会い、また、シニアボランティア相談の補助を務めました。

八街市「生きがい短期大学」に出前講座しました

日時 一二月十六日（水）
対象 約二十名
講師 後藤 優 幹事
演題 行ってみたい国ラオスへ私のボランティア体験・見てきたラオス

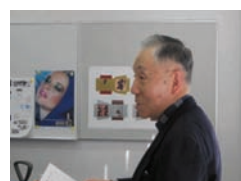


真と分かりやすい説明で講演され、「交流の継続」（私のボランティア・その後）と締め括られました。参加者には深い印象を与えることが出来たと思われます。品川会長がアシストし、主催者に改めて当会の活動の紹介と出前講座の継続検討を依頼しました。

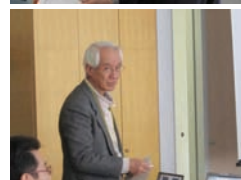
千葉市生涯学習センター講演会で当会役員が講演しました

日時 二月二十日（土）
対象 二十名（定員）
講師 上田 顧問、酒井 徳子 会員、酒井 会計監査、津田 事務局長

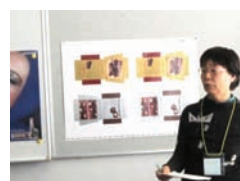
演題 六十歳からの生きがい
千葉市生涯学習センター主催の「ボランティアパーク2010」講座に参加出演しました。団塊の世代や子育て後の世代に対して第二の人生の選択肢の一つとして「JICAシニアボランティア制度」の紹介を行いました。



上田義晴講師



酒井國彦講師



酒井徳子講師



津田正臣講師



講演会場全景

二月十四日、十九日には参加団体による展示会も行われ、関連記事が十一ページにあります。

千葉ふるさと文化大学 生涯学習講座で講演します

日時 三月十二日（金）
対象 約百五十名
講師 白鳥 貞夫 会員
演題 バヌアツでのシニアボランティア活動

（お詫び）

編集締切の都合で、記事、写真が掲載できませんでした。次号に掲載の予定です。

会員活動

中南米文化研究同好会で
日本とメキシコB・Cの
文化比較講座

寺戸 康隆 (松戸市)



二〇〇九年八月十一日、放送大学千葉学習センター第二講義室で、JICA

シニアボランティアOG齊藤富貴子女士主宰の第四十回中南米文化研究同好会に招かれ、「メキシコ・バハ・カリフォルニアと日本の文化の接点」と題した講座を持った。

筆者は二〇〇一年四月に港町エンセナダにある同州立自治大学(UABC)エンセナダ校・工学部で二年間教職ボランティア活動に従事した。この滞在を機にバハ・カリフォルニアの文化・習慣・言語行動について体験した。本講座では首都メキシコシティと任地の地理・環境・人間模様を織り交ぜながら文化・習慣・言語行動について日本との対比を五つについて言及した。

「挨拶とスキンシップ
(physical contact)」

先ず初めに、挨拶やつきあいが老若男女、身分や年齢差に関係なく対等に行われる事です。日頃は俺、お前、あん

たといったざつくばらんの二人称(tutears)で対話します。日本ではとてもこのようにはいきませんね。次に挨拶には必ずいわれるスキンシップが伴うという事です。メキシコでは男女間や女性同士では「頬キス(un beso)」と「抱擁(un abrazo)」を交わす習慣が守られている。これは手紙の文末に決まり文句「un beso y un abrazo」と書き添えることでも示されます。日本人の多くがたとえ家族、母子、夫婦や恋人間でもこの習慣が見られないのは現地の人には奇異に感じられています。

多文化社会と人間関係

メキシコは多文化社会なので、多文化コミュニケーションに慣れ親しみ、術が巧みです。日本が概して一言語・一文化・自文化中心主義・ハイコンテキスト社会であるのに対してメキシコは概して多民族・多文化・多言語・個人主義的・ローコンテキスト社会と言われています。したがって日本の常識がメキシコでは非常識になることがあります。この逆も然りです。

氣質とマナー

赴任後住まいを手付金を入れて仮契約したのですが、家主の都合で不動産屋から一方的に契約解除された。クラスメイトや運動会、家庭での餅つきなど、心暖かい思いをさせてくれました。日本語や日

ア人が出現した為です。日本の常識では考えにくく事前に連絡があるべきですね。



寺戸会員が講演した会場全景

価値観と人間愛

メキシコ人は人と人の触れ合い、特に夫婦・恋人・家族・兄弟・姉妹・親戚との心の触れ合いや助け合いを非常に大切にします。週末はほとんど家族同士、あるいは独立した子供達が両親の家に集まって一緒に過ごします。家族の絆や家族愛の強さを実感し、少し妬みさえ覚えるほどでした。恒常的に多くの自殺者がいる日本の現状は理解されないようでした。

日系人会と日本の

伝統・文化・習慣の継承

日系人会の多くの人達との交流で大半の人達が日本の文化や伝統を四季折々の行事の実践を通して継承されている事を知りました。町内のピクニックや運動会、家庭での餅つきなど、心暖かい思いをさせてくれました。日本語や日

本料理法も含め日本の古き文化・伝統・習慣を日系三世・四世に受け継がせるよう努力されています。海外から日本の食文化やおもてなしに熱い眼差しが向けられています。が、我々自身が関心を取り戻すゆとりが求められますね。

「愛国心」と「日本」

多文化・多移民社会であるメキシコでは、アメリカ同様に団結心と連帯感を高めるためお祭りやイベントの時は必ず国旗掲揚と国歌斉唱が行われる、日常生活の中で絶えず愛国心が培われている訳です。これからの日本は、同じ島国の英国に倣い多文化・多民族社会の一員になれるよう、救いを求める外国人ひいては社会的弱者に対してもっと包容力と温かみのある社会実現のため行政に対し働きかけていきたいものです。

ラオスとの交流・その後

後藤 優 (千葉市)



シニア海外ボランティア・グループ派遣の一メンバーとして、ラオス第二の

都市サバナケットにある技術短大強化のため約二年半活動し二〇〇三年末に帰国した。

その後既に六年が過ぎたが、年一回の頻度で親戚や友人知人を同行してラオスを訪問し、現地の人達と交流を続けてきた。同行者は、私のラオス体験、現地写真、特産品の織物や民芸品等を紹介した際、是非ラオスを案内して欲しいと言ってくれた人達である。私は彼等を観光地に案内すると共に技術短大や親しくしていた現地の人達を訪問し旧交を温めてきた。

ある青年との出会い

二〇〇八年二月、私のラオス訪問一行は首都ビエンチャンから任地だったサバナケットへメコン河に沿って約四五〇kmをバスで旅行し、そのバスの中で一人の青年と出会った。親しく話す機会があった。彼はアニヤという名のラオス医科大学の学生で、私達の目的地から更にバスで四時間奥地の少数民族の住む村にある実家に帰省する途中だった。アニヤはそんな奥地からどうして大学に行くことができ、上手に英語がしゃべれるのか知りたく、彼がバスを乗り継ぐ数時間にその生い立ちと将来への希望を語ってもらい、再会を約束して別れた。

彼が語った内容は、「自分は家族や村の人達の世話になり寄宿舎のある中学・高校で勉強することができ首都の医科大学に進学できた。将来医学を修め村の人達の役に立つ医

者になりたい。また、親族の中で優秀な子供を一、二名選んで自分と同じ様にサバナケットの寄宿舎つきの学校に入りたい。」であった。私達はこの話に感銘し彼を支援したいと思った。



アニヤの住む村



アニヤ(右端)とその家族

支援の実現
帰国後、現地でお世話になった方の親族で東大医学部大学院に留学していたラオス医科大学出身のドクターに相談し、アニヤへの奨学金提供について母校への橋渡しを依頼した。彼は快く学長への紹介を引き受けてくれ、二〇〇八年十一月に医科大学訪問を果たすことができた。奨学金の

主旨はアニヤのように地域医療を志す学生に対し授与することとし、更に一名を大学より推薦してもらった。学長は私達に感謝状を手渡し、次年度以降の継続を希望した。



2008年11月第1回奨学金授与にて学長より感謝状 笑顔のアニヤと女子学生

二〇〇九年十一月新たなドナーと共に第二回訪問をおこなった。東大留学を終え講師として働くドクターを通じ更に一名の奨学生を追加推薦してもらい、奨学生は三名となった。



2009年11月、3組の夫婦と共に訪問し奨学金授与後に記念撮影 前列3名がアニヤを含む奨学生、後列中央が学長

これらの旅行に同行した人達は、この奨学金ファンドの提供者でもあり、医科大学訪問に加えラオス旅行を楽しむ

ことができた。
この交流の継続は私の生活に励みを与え充実感をもたらしてくれる。それは、ラオスでの二年半のボランティア活動と生活からの続きであり、その機会を最初に与えてくれたJICAに感謝しつつ、今後も続けたいと思っている。

私の地域国際協力ボランティア活動

影山 洵 (四街道市)

私は国際協力ボランティア活動、「友達と会えるから楽しい！」という環境作りを目指しております。



地域田植え体験会に参加

私の地域国際協力ボランティア活動は、二〇〇五年の帰国後、スタートしました。最初の一年は千葉県下の国際交流関係団体の研修会で滞日外国人を対象とした日本語教授、行政相談支援、災害時支援、医療支援、外国人相談支援等に参加し、広い分野の知識や情報を学習しました。二

〇〇六年に日本語学級に入会し、毎週一回、外国人の子供に日本語を教えました。その後、行政相談室やNGOの外国人相談の支援活動に参加しました。

日本語学級

対象は小学生から高校生です。最初は小学生中心だったのですが、子供たちの進学に伴い、中学生、高校生と自然拡大した形になりました。当初は日本に来たばかりで、日本語の学習環境が必要な子供たちを支援する形をとっていましたが、授業中の日本語が解らず勉強について行くのが困難な子供たちの支援も加わりました。その後、日本語学習の背景理解の為、日本語と連動した節分やひな祭りなど日本文化の学習理解の学習項目も加わりました。



「小学生夏休み学習会」の見学のプラネタリウムを見学しました。

日本に来たばかりの生徒たちが学習困難になる要因としては、「間違った日本語を笑われるのがいや」「日本人の友達とできない」「授業の日本語

がわからない」等があります。が、当学級では「同じ環境の生徒の集まりの為、垣根がないので、すぐ友達になれる。」という利点があります。

日本語学級に来ると「友達と会えるから楽しい！」という雰囲気自然と出来上がっています。国籍の違う生徒の共通語は日本語のため、お互い交流する努力をし、積極的に日本語をしゃべるため上達が早くなっているようです。同じ環境の生徒が日本語を通して、交流努力をする、友達が增える、日本語が上達する、学校の教科書もわかるようになる等の相乗効果を生んで状況が好転するようです。

外国人相談

二〇〇七年から千葉県下某市の外国人相談室やNGOのボランティアとして、電話相談や訪問相談の側面的行政支援をしています。相談室には英語、中国語、スペイン語等数ヶ国語の通訳ボランティアがいるのですが、小生は、英語と中国語を担当しています。訪問目的は育児上の悩み、金銭トラブル、国際結婚の行き詰まり等と多岐にわたり、かなり深刻な内容もあります。相談者が来たときは笑顔で歓迎し、温かい友好的な雰囲気を受けようという心がけです。相談内容は行政の関係部署の専門の担当者につなぐのですが、相談者が自国の言語で思

い切り悩みを打ち明けた時点で、既にかかりのストレスから解放され、問題が半分解消された印象を受けます。

相談室には切羽詰まって来る人、迷いながら来る人とさまざまですが、行政担当者の専門的なアドバイスにより解決の糸口が見つかることが多いのです。来てよかったと喜んで帰られる外国人が多く、その時、ボランティアとしてこの活動をして良かったという感じがします。

私の生涯学習ボランティア

上田 義晴（千葉市）

平成二十一年十一月三日、千葉市生涯学習センターの「ぼらセンフォーラム二〇〇九」でパネリストを務めました。発表の概要は次の通りです。

自分史



幼少時代、北京で五年間を過ごした影響か、大学に入る頃から将来は海外で活躍したいとの夢を持っていました。大学では、ESSに入り、ゼミでは「貿易論」を専攻し将来に備えました。

貿易商社に入社、香港、マニラ、イラン、シンガポール、タイと五ヶ国に駐在、通算二十二年間海外駐在を経験し、常々それらの国々と国民への感謝とご恩返しへの気持ちを持っておりました。退職後、JICAタイ事務所のシニアボランティア業務調整員に応募、派遣されたことが人生の中で大きな転換点となりました。タイ事務所で一九九七年十一月から三年間業務調整員を、続けて二〇〇一年八月からJICAラオス事務所まで二年間ボランティア調整員をや、両国に国際協力面で些かなりとも貢献し、ご恩返しが出来たとの思いを致しております。

当時のJICAタイ事務所長以下の支援を得てシニアボランティアゼロのスタートから帰国時には、シニアボランティア五十名体制に持つべく方向付けが出来、業務調整員を一举に三名体制として後任にバトンタッチしました。

その後、JICA、千葉県、千葉市にご恩返しで社会貢献をしたいと思い、生涯学習ボランティア活動を展開中です。

帰国後のボランティア活動

・千葉県JICAシニアボランティアの会への参加

この会は、JICAから派遣された千葉県出身或いは在住のSVが、親睦を図り、これまで培ってきた知識、経験、ノウハウを千葉県、県内市町村の国際協力事業や、JICAの地域協力事業に活かす、ボランティア活動をするものです。活動内容は、国際理解教育推進のための学校、公民館等での「出前講座」、JICAシニアボランティアの募集説明会への参加、各種イベントへの参加協力等多岐に渡っています。

私は役員として活動を推進してきました。

・千葉市国際交流協会 賛助会員活動

同協会で、在住外国人への日本語学習講師を担当しており、これまでに、米、英、豪、中、ベトナム、タイ人生徒を相手にマン・ツーマンで日本語指導並びに生活相談をしてきました。

・NPO 日本・タイ社会文化交流ネットワーク活動

理事として、「在住タイ人児童・生徒のための日本語学習コミュニケーション」講座を千葉市国際交流プラザ会議室で実施中です。

同NPOでは、千葉大学タイ人留学生とも交流の場を設けたり、日本語教材をタイのウボンラチャタニ大学日本語学科へ寄贈したり、同大学の日本語学科学生有志を日本へ招聘、日本の文化、生活を実感させるボランティア活動も行っています。

帰国投稿

チュニジアの水産業について

大久保 邦衛

（二〇〇九年帰国）



私の活動の概略を下記いたします。指導科目は「水産物加工品の品質改善」でした。

チュニジアの水産業生産量（二〇〇二年現在）

地域	生産量	魚種別生産量
世界全体	1億4,200	海水魚7,000, 淡水魚2,700, アナドマス416, 甲殻類844, 軟体類1,880, 藻類1,186, その他; 真珠・珊瑚・他90
チュニジア	10	海水魚 8.7, その他 1.3 (0.07% on world total)
日本	663	遠洋 84, 沖合い沿岸 440, 養殖 125, 内水面 14 (4.7% on world total)
中国	1,425	海水魚 250, 甲殻類 200, 軟体 66, 藻類その他 910 (10% on world total)

注

・アナドマス＝鮭・鰻等生涯に海水域と淡水域間を移行する魚類

チュニジアの漁業の現状は次の通りである。（海岸線千三百キロメートル、大陸棚水面面積八万平方キロメートル）

【水揚量 二〇〇五年現在】

①全体 十萬八千ト

約二億五千五百万ドル

②養殖 四千三百二十ト

タイ類、テラピア、二枚貝

【加工業】

五十二社（鮪、サバ、イワシ等の缶詰加工十五社、その他塩蔵品やマリネ）



水産物加工工場

【チュニジアにおける水産業の位置】

①輸出商材

数量 一万四千六百七ト

総額 約一億五千万DT

魚種は鮪、イカ、エビ、鮠などで、九割が欧州市場向けである。

全輸出量中の水産物は数量ベースで十九%であり、オリーブ、原油、鉱物、手工業製品について重要な輸出商品となっている。

(註) 加工原料約三万トが輸入されている。
D T (チュニジア・ディナール) 一D T は約八十円

②雇用機会の提供

人口約九百八十万(二〇〇二年)の半数が農水産業に従事、水産関係の雇用は約九万人である。

【課題】

①沿岸漁業資源の減少

中・南部の資源枯渇が顕著で一九八九年の漁獲量四万六千トが二〇〇〇年には二万六千トに減少した。原因は底引網漁や鉱石採取による漁場破壊。現在は約十二万トンに回復した。

②加工における課題

原料鮮度、製造技術、衛生安全等の管理体制が未整備である。

・原料の工場搬入時点で既に鮮度低下が始まっていた(漁獲後早い段階での内臓除去や低温での輸送保管が必要)

・その他

外部遮蔽性不備で換気口や窓に防虫網が無く製品への異物や菌混入の危険がある。

衛生管理も不十分で、作業場への入退場時の作業員検査や消毒設備の不備がある。

対策案

水産事業への基本的な取り

組み姿勢として従来の生物学的、資源学的アプローチと並行して水産経済学や水産食品学的アプローチをより一層強化する必要がある。

①世界水産業界の国際分業化への参入と加工ニーズの掘り起し。

②知的インフラの充実(技術情報開示と共有化)。

③鮮度保持のため漁獲から製品保管までの温度管理のシステム作り。

チュニジア水産業の一層の発展を希望しながら今後も同国の関係者の方達と交流を続けたいと思っている。

サバラガムワ大学での経験と体験

品川 雅子
(二〇〇九年帰国)



大学の様子

スリランカの大都会コロンボからバスで東へ約五時間、標高五百

百の小さい村ベリフルオヤにサバラガムワ大学がある。任地は交通が不便であるが高地にあるため涼しく、過ごしやす気候である。キャンパスには体育設備、図書館が充実し、かなりの台数が備え付けられているコンピュータ

室もある。辺鄙なところではあるが設備も整い、学習環境は整えられている。大学が都市から離れているので、学生、教職員の大部分が寮、下宿、宿舍で生活している。週末になると学生、教職員のほとんどが自宅に帰り、静かになり、さびしくなる。

山一つが大学という感じで、リスや大きなトカゲ、蛇、ヤモリ、犬、猫などいろいろな動物がいる。農学部、牛も悠々とキャンパス内を散歩している。六、七月は朝と夜に強い風が吹く。そのため停電が多く懐中電灯、ろうそくは必需品である。停電の夜、家の中に迷い込んだ蛍の光が幻想的であった。

生活

日用品やちよつとした食料は大学内の売店で購入でき、大学の周囲にも小さい店があるので必要なものは徒歩圏内でそろそろ。また毎週水曜日に市がたち不揃いながら新鮮な果物や野菜が安く買える。肉、魚が手に入りやすい。

住居は大学構内にあり、三LDKの大ききで、青年海外協力隊員の若い女性との共同生活であった。治安もよく日本語センターまで徒歩二分ほどの近さであった。

サバラガムワ大学の日本語教育

十三あるスリランカの国立大学でケラニア大学とサバラ

ガムワ大学の二校にだけ日本語学科がある。日本語講座は三年制で各学年に約二十名在籍している。日本語のほかに日本事情、歴史、日本文学を学び幅広く日本に関する知識を身に付けられるようになっている。卒業後の進路が狭く日本語を生かした職に就くことが難しい。中学高校での日本語教師を目指す人が多いことから教授法に力を入れ、近隣の高校での教育実習を初めて実施し評判が良かった。



日本語講座の教員達 中央が筆者

三年制から四年制の大学に移行するためのシラバスづくりが主な活動であった。それは大学が希望する社会で活躍できるような人材育成に役立つ実践的な日本語カリキュラム作成であり、現地講師の協力を得てできた。しかし後期の授業がストで三週間休校になり学期途中で任期終了となり帰国となったことが残念であった。

日本語学科は女子学生がほ

とんどで、長い髪をお下げにしたり、ポニーテールにしたりし、リボンでおしゃれをしていた。学生はTシャツにジーンズであるが女性教師は民族衣装のサリーを着用する決まりがある。外国教師は例外であった。

学生は点数の良し悪しが就職にも関係するのでよく勉強していた。また全員が大学周辺に住んでいることもあり仲間との結束もつよい。

三食カレーの国スリランカ

バラエティに富む三、四種類のカレーが毎食準備されている。辛いものが苦手であったが涙を流しながらもおいしくて食べたものもあった。学生に人気があった日本食はてんぷら、お好み焼きであった。一般的に初めての日本料理にはなかなか手をつけなかった。食に関してはすぐく保守的であると感じた。

スリランカとの架け橋

赴任中には他の学部の留学経験のある講師から日本語で声をかけられたり、食事に誘われたり誘ったりと楽しい経験ができた。

若い講師が海外日本語教師育成プログラムで来日したり学生が1カ月のプログラムで来日できるようになったりと日本語を勉強する強力な動機づけが増えうれしく思っている。

JICA関連行事

JICA留守家族連絡会に参加しました

日時 十一月三日(火・祝日)
場所 京葉銀行文化プラザ
対象 派遣中JICAボランティア(青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニアボランティア)留守家族(合計二十八家族)

当会の水野純也会員がアルゼンチンでのボランティア活動報告を行い、寺戸康隆会員、品川会長が地域別懇談会に出席しました。



連絡会会場

水野会員の報告

派遣前シニアボランティアが千葉県庁表敬訪問

平成二十一年度十月と一月に派遣される千葉県下のシニアボランティアが千葉県庁総合企画部を表敬訪問されました。



第二次隊派遣者との情報交換

前列左より
武藤 達雄 SV
渡辺 章 SV
柳沢 和芳 SV
丸山 公太郎 氏
浦木 仁 SV
高木 良雄 SV
大澤 トシエ SV

ペルー、機械工学
ミクロネシア、予防接種
コスタリカ、渉外促進
千葉県総合企画部次長
メキシコ、品質管理
カンボジア、食品加工
シリア、服飾デザイン

後列左より
黒田 昭太郎 当会副会長
後藤 優 当会幹事
遠山 峰司 氏
高田 宏仁 氏
高橋 吉男 SV
高木 利公 SV
木野本 まゆみ氏

JICA地球ひろば
JICA地球ひろば
パラオ、家畜飼育
タイ、コンピューターソフト
JICA千葉デスク



九月十六日(水)第二次隊八名の方々が表敬訪問をされました。当会黒田副会長、後藤役員が同行しました。

第三次隊派遣者の自己紹介



前列左より
川奈 郁子 SV
施井 仁祥 SV
丸山 公太郎 氏
渡辺 要吉 SV
福井 幹雄 SV

トンガ、日本語教育
ベトナム、裾野産業振興
千葉県総合企画部次長
エルサルバドル、中小零細企業支援
パラグアイ、野菜栽培

後列左より
横田 勝徳 SV
長尾 和行 SV
吉原 久男 SV
遠藤 正芳 SV
寺島 得司 SV
木野本 まゆみ氏
安藤 洋子 氏
黒田 昭太郎

当会幹事
ウズベキスタン、金融システム
トンガ、農業政策アドバイザー
パナマ、建築
エルサルバドル、上下水道
JICA千葉デスク
JICA地球ひろば
当会副会長



十二月十八日(金)第三次隊八名の方々が表敬訪問、丸山総合企画部次長、小川総合企画部長の激励を受けました。当会からは

黒田副会長と横田幹事が立会いました。

JICA本部・当会定期情報連絡会

本連絡会は二ヶ月毎に実施され事務的連絡、意見交換を行っております。平成二十二年の連携活動の強化に向けて品川会長、黒田副会長、及川幹事が二月十八日の情報交換会に出席、JICA北野一人次長と会談しました。

①当会の活動にはJICA、JOCV、JOCVとの連携が欠かせない。JICAはしっかりと理念を掲げ、機会ある毎にボランティアに帰国後の社会還元的重要性を啓蒙して戴きたい。②シニアボランティアおよびそのOBをJOCVと同様に活用を考えて欲しい。シニアボランティアは社会的経験と余裕時間を有効に使いボランティア活動が可能などの点を重視するようお願いしたい。③当会はJICAの社会還元を支援する目的で造られた経緯があることを理解戴き、これからの一層の活用をお願いしたい。④JICAはシニアボランティアに対し、帰国後は「地域社会に対する自らの経験を生かす社会還元すべき」との方針を示し、その活動を支援してもらいたい、との意見を述べました。

北野次長はこれらの意見に対し、OB会の活動は十分認めているつもりである。特に身近の人に経験者としてJICAの活動をPRして頂きたい。また従来地方自治体(県庁)がボランティア募集に協力的であったが、最近では財政悪化等の影響で後退している、との発言がありました。

続けて北野次長より、シニアボランティアに関する近況の報告がありました。

・シニアボランティア秋募集の結果
応募者 九百三十四名
合格者 百八十二名(昨年百六十三名)
・四月より五月十八日まで春募集活動が始まる。新聞広告など十割ほど節減の予定。千名程度の応募を予定する。

(注) 十二月に春募集に関する記事があります。

会員トピックス



千葉市長より上田顧問に感謝状が贈られました。

上田顧問の永年に亘る千葉市の国際交流活動への貢献に対し千葉市長より感謝の意が表明されました。おめでとうございます。

第八回帰国報告会

日時 三月一日(土) 午後
場所 アミューゼ柏

当会とJICA地球ひろば共催の「千葉県JICAシニアボランティアの会第八回帰国報告会」が柏市アミューゼ柏にて開催されました。東葛飾地区で初めての開催でしたが、多くの市民の方々、来賓、会員、合計約八十名の盛会となりました。



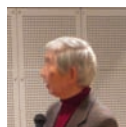
JICA 地球ひろば
山本健一朗氏



品川会長挨拶

今回の報告者は主として平成二十年〜二十一年度帰国シニアボランティア五名で、氏名・任国・指導科目および演題は次のとおりです。
(敬称略、報告順)

及川淳一 (ボリビア・建設機械維持管理)



「南米の内陸国ボリビアチェ・ゲバラ終焉の地」

武松敏次 (アルゼンチン・代替エネルギー)



「自然と資源の豊かな国 アルゼンチン」

品川雅子 (スリランカ・日本語教育)



「スリランカ・サバラガムワ大学での生活と活動」

・注 品川雅子氏の報告内容は八ヶ会会員寄稿欄にあります。

樋口徹生 (ブラジル・日本語教育)



「ブラジル移民一〇〇年」日系社会に対する敬意とその基にあるもの」

白鳥貞夫 (バヌアツ・商業経営)



「南太平洋の楽園・バヌアツでの体験」



報告会会場
壇上はJICA
地球ひろば
山本健一朗氏

会場ロビーでの
展示パネル
↓



当会ウェブマスターが 交代しました

前任ウェブマスターのご挨拶
堀端俊雄



二〇〇六年五月の総会でホームページ創設の希望が出されて以来、役員を含む関係者との意見交換会、

開設準備委員会と進み、初代のウェブマスターを委嘱されました。以来ゼロスタートで当会としてのホームページ設計から、立ち上げ、維持、管理を担当して来ましたが、当初の経緯は「当サイトの更新記録」に残してありますので参照願います。

ホームページの担当も同じ人間が長期間引き受けるとどうしても「マンネリ化」の問題が出て来ます。鮮度を維持する為には、月例更新以外にも随時更新することで変化を印象付けなければなりません。一日の中でも時間帯により画面に変化を持たす等の裏技的な工夫も求められますが、それでも同じ人間が担当していると限界が出て来ます。そういう観点からも三、四年毎に交替して新風を吹き込む必要があります。

全面的にデザインを更新したホームページが二月の役員会で承認され、登場しました。パッとみたところ、明るくて春が来たような印象であり、後任の白鳥さんの努力が実を結んだと言えましょう。昨年八月から引継を開始し、無事バトンタッチ出来ました事を、ホッとすると同時に嬉しく思う今日この頃です。

今後の更なる発展を祈念しながら前ウェブマスターとしての御挨拶に代えさせて頂きます。皆さんの御協力に感謝します。ありがとうございます。

新任ウェブマスターのご挨拶

白鳥貞夫



昨年九月に当会ホームページの二代目ウェブマスターに任命されました。ITオンチの生にお鉢が

回って来たのは、SVでバヌアツ派遣中に始めた独学のホームページ遊びが前任の目に止まった為のようです。本来「マスター」は練達の士に許される称号で、焼鳥屋のオヤジでも「マスター」と呼ばれるには相当の修練が要りますが、当マスターは脱サラで屋台店を譲り受けたばかりの

「にわかマスター」に等しいとご理解いただき、各位のご理解・ご支援とご愛顧をお願い申し上げる次第です。

当会ホームページには二つの役割があると思料します。第一は情報共有の場として会の活動に関する最新情報を提供し、会員の積極的な参加を促すことであり、第二は外部への情報発信の場として、会員がSV活動で獲得した知識・経験を外部に広く知ってもらおうと共に、それ等を地域社会で活かす場を増やすツールとなることです。ウェブマスターの仕事は、その役割が効果的に果たされる為の場(ウェブサイト)を維持し改善に努めることと考えております。

本年二月に当ホームページをリフォームしました。意図したところは、①ひと目で当会の活動の全貌が見える工夫、②「出前講座」等の最新の地域活動をPR、③会員のSV体験を個人ペースで情報発信することです。「にわかマスター」の乏しい知識と技量で出来ることは限られますが、会員各位の活発な投稿とビクター各位のご愛読により、当ホームページが益々繁盛することを願っております。

当会ホームページURL
<http://chibajicasvob.svjocv.net>

各地イベント参加

四街道市民文化祭

日時 十一月三日（火・文化の日）

当会は昨年引き続き四街道市民文化センターにブースを開設、当会のアクティビティの広報活動を行いました。JICAシニア海外ボランティア、青年海外ボランティアについての相談コーナーを設けたほか、余興として国際理解クイズ、世界の茶の試飲を提供、好評でした。



千葉市民活動フェア

きぼーる 2009

昨年十一月二十・二十一日の二日間、千葉市中央区のきぼーる (Qiball) で展示六十団体、ステージ十四団体の参加を得て、盛大に開催され

ました。当会からは増田幹事ほか横田、後藤、酒井、及川の各役員が参加しました。

当会はパネルと展示資料を使って日ごろの活動内容を紹介しました。また、JICAの国際援助活動、シニア海外ボランティアの活動を紹介するとともに、JICAシニアボランティア募集要綱を希望者に配布しました。

浦安市国際交流・協力フェスティバル 2010

日時 一月一七日（日）



例年どおりJR新浦安駅前前のプラザマールにて開催されました。午前中は人出がやや低調でしたが、午後にはステージショーが始まり盛り上がりました。



当日は浦安市在住の大久保邦衛会員、宮崎泰会員、河合祥雄会員の協力を得て、ブースでの展示内容はパネ

ル展示、国際理解クイズ、JICAシニアボランティア応募相談などで、好評でした。役員は品川会長、黒田副会長、及川淳一、酒井國彦（夫妻）が出席しました。

ちば市国際ふれあいフェスティバル 2010

日時 二月二十一日（日）

千葉市中央区のきぼーる (Qiball) で開催された「ちば市国際ふれあいフェスティバル 2010」に引き続き出展が開会挨拶を行うなど千葉市の盛り上げ努力に加えて、好天に恵まれ、多数の入場者があり盛会でした。



ブースにて来訪者に対応
(酒井徳子)



熊谷市長がブースを視察
(上田義晴・酒井徳子)



閉会挨拶

今回は昨年より二団体多い四十二団体が参加、当会が運営協議会の副会長役を担当しました。品川会長、上田義晴、後藤優、横田勝徳、酒井國彦（夫妻）、津田正臣が交代で説明役を務めました。

千葉市生涯学習センター主催「ボランティアパーク 2010」展示部門に参加しました。



当会ブース

JICAシニア海外ボランティアについての説明

二月十四日・十九日に千葉市生涯学習センターで「ボランティアパーク 2010」が開催され、当会もブース展示を行いました。

会員動静

（平成二十二年二月一日現在）
（敬称略）

○会員現状

会員数 九十八名

○再派遣帰国者

羽田 亨 パナマ

○再派遣活躍中の方々

須郷 隆雄（エクアドル）

鈴木 品（カンボジア）

小松 秀世（グアテマラ）

木内 良郎（メキシコ）

高木 利公（タイ）

渡辺 章（ミクロネシア）

大澤 トシエ（シリア）

武藤 達雄（ペルー）

山岸 隆（モンゴル）

寺島 得司（エルサルバドル）

吉原 久雄（トンガ）

濱崎 丘（ミクロネシア）

環境技術（短期派遣）

農薬政策アドバイザー

廃棄物管理

上下水道

農業政策アドバイザー

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

環境技術（短期派遣）

JICA関連トピックス

シニアボランティア募集の体験談&説明会に協力参加しました

千葉会場（十月四日（日）京葉銀行文化プラザ）



パネリストとして若林和春・寺田博義 両会員、よろず相談員として村上智道 会員が参加しました。来場者は五十数名となかなかの盛況でした。

柏会場（十月五日（月）アミューゼ柏プラザ）



パネリストとして大久保邦衛・浜崎 丘 両会員、よろず相談員として大谷章助 会員が参加しました。柏会場での体験談&説明会は二回目ですが、雨天に拘らず五十数名（内女性十名）の来場者がありました。

パネリストは活動内容、日常生活、語学、現地の人々との交際など具体的、丁寧に説明、ボランティア検討者の不安を解消したと思われます。

船橋会場（船橋中央公民館）
日時 十月二十四日（月）



パネリストとして加藤眞理・吉原久雄 両会員、よろず相談員として羽関総一郎 会員が出席しました。

パネリストの応答が歯切れよく、SV動機、成果、帰国後の満足感など参加者に良く伝わったと思われました。来場者の多くの人が応募相談に訪れました。

ニューファミリー新聞社主催「シニアフェスティバル」に参加しました



十月二十日（木）に開催された「シニアフェスティバル」のJICAブースで当会活動状況を展示しました。品川会長、

及川役員が説明員を勤めました。当日、ミニ講演会も行われ、当会の吉原久雄 会員が講演しました。講演の詳細は四ヶをご覧下さい。

平成二十二年度シニア海外ボランティア春募集の「体験談&説明会」が始まります

千葉県における平成二十二年度JICAシニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の春募集の「体験談&説明会」は次の日程、会場で行われる予定です。

柏会場

四月六日（火）

「シニア」 十五時三十分～

「青年」 十九時～

アミューゼ柏プラザ

JR柏駅東口より徒歩七分

千葉会場

四月十日（土）

「シニア」 十時三十分～

「青年」 十四時～

京葉銀行文化プラザ 六階

JR千葉駅より徒歩三分

幕張メッセ会場

四月二十五日（日）

「青年」 十四時～

JOCA賀詞交歓会が行われました

一月三十日（土）夕方に開催され、当会から品川会長、山本副会長、及川幹事が出席しました。JICAの派遣国の在日大使館館員が多数出席し、交流を深めました。

CCB便り

はじめまして。この度千葉県国際協力推進員をさせていただきますことになりました。

学生時代に海外ボランティア活動に参加して以来、国際協力の分野に関心をもち続けてまいりました。生まれ育った千葉県の中で、国際協力に携わる方々の輪が益々広がっていくことを願い、皆さまと共に日々活動を行っていかれたらと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、四月には柏、千葉、幕張にて海外ボランティアの「体験談&説明会」が開催されます。多くの皆さまのご参加をお待ちいたしております。

鈴木 麻里子



新JICA千葉デスク 鈴木 麻里子氏（右）
前任者 木野本 まゆみ氏（左）

CCB便りを書かせていただくのも、今回で最後となりました。全国のシニアボランティアOB会の中でも貴会の活動は大変活発で、他県の推進員から何度か問い合わせを受けました。皆様のフットワークの軽さにはただただ脱帽するばかりで、千葉デスクに在籍した三年の間、皆様に随分助けて頂きました。

今後は国際協力の仕事から離れますが、貴会のますますのご発展を祈念し、また何かの折に皆様にお目にかかることを楽しみにしております。どうもありがとうございました。

木野本 まゆみ

編集後記

JICA千葉デスクとして当会を支援された木野本まゆみ氏が退任されました。三年間に亘るご協力に感謝すると共に、今後の一層のご活躍を祈念いたします。ありがとうございます。

SVニュースの充実のため、作成、発行に酒井國彦役員が参加します。豊かな経験を駆使した活躍をご期待下さい。



二〇〇五年四月～
二〇〇七年四月
チュニジア
印刷会社の業務改善

本紙へのご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。

千葉県JICAシニアボランティアの会
(The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba)
043-255-3810 (山本)
shigeho_yamamoto@yahoo.co.jp

千葉県国際協力推進員
043-297-0245 (鈴木)
jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp